FARO®

VISUAL INSPECT™

マニュアル AppStore バージョン

機能範囲：

- 確信的な操作による快適なナビゲーション
- ツリービューとプレビュー画像による製品構造の参照
- 3D データを素早く簡単に表示
- 直観的なマルチタッチ機能による移動、回転およびズーム
- 1 つのパーツと製品全体の非表示 / 表示
- 様々なビューオプション（例：シェード、背景色）によるユーザー定義の表示

内容

1. アプリ設定 **4**
1. インポート/エクスポート 4

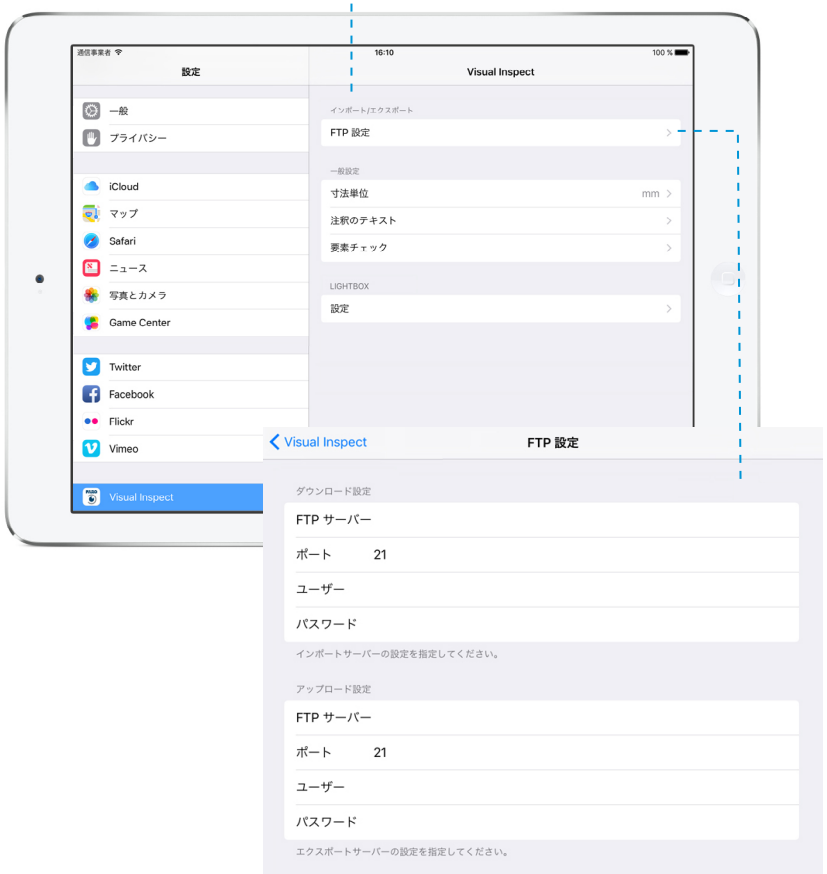
2. エリアローカルファイル **5**
1. 一般機能 5
2. アプリ情報およびマニュアル 8
3. ファイルの検索 8
4. セキュリティ設定 9
5. インポート 10
6. エクスポート 11

3. ツリービュー **12**
1. 機能 12

4. 3D ビュー **13**
1. ビューの操作 13
2. 概観機能 14
3. 非表示 / 表示 15
4. 軸システムとビューの変更 16
5. 3D ビューの設定 17

1. アプリ設定

iPad の一般的なアプリの［設定］には Visual Inspect 用のエリアが含まれています。ここでいくつかの設定を行うことができます。

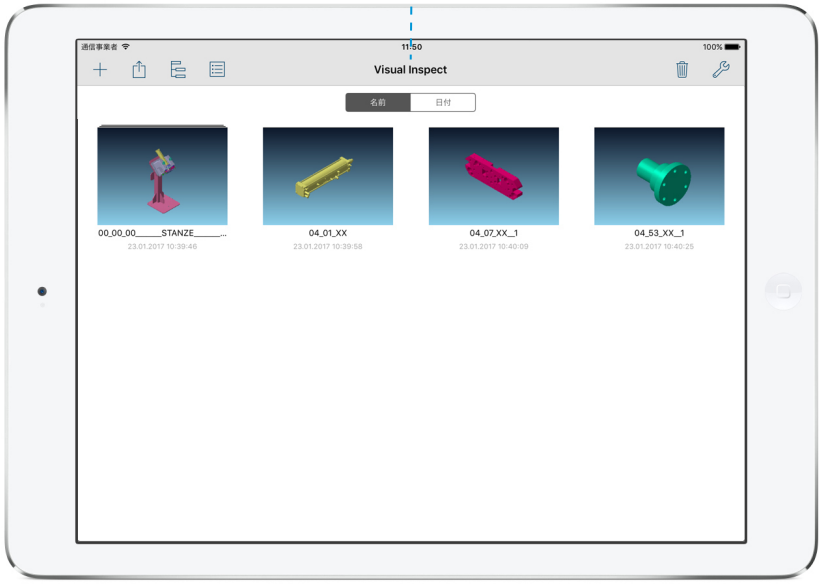


1. インポート/エクスポート

［FTP 設定］の下で、FTP ダウンロードサーバー（データインポート用）および FTP アップロードサーバー（データエクスポート用）を定義することができます。

FTP サーバー、ポート、およびユーザーを入力します。［パスワード］フィールドは、サーバーにパスワードが定義されている場合のみ入力する必要があります。

2. エリアローカルファイル



アプリを起動し、ローカルファイルに移動します。
デバイスで利用可能なすべてのデータがここに表示されます。1 つのファイルがプレビューサムネイルとして表示されます。ファイル内で製品構造が利用可能な場合、そのファイルがスタックとして表示されます。プレビューピクチャーの下に、ファイルの製品名およびダウンロード日が表示されます。

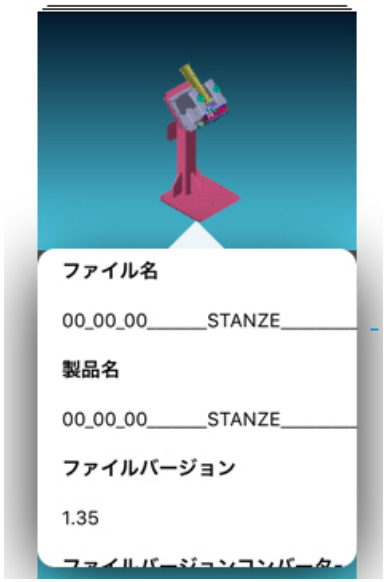
1. 一般機能

[データのインポート] コマンド：*10ページを参照*

[データのエクスポート] コマンド：*11ページを参照*

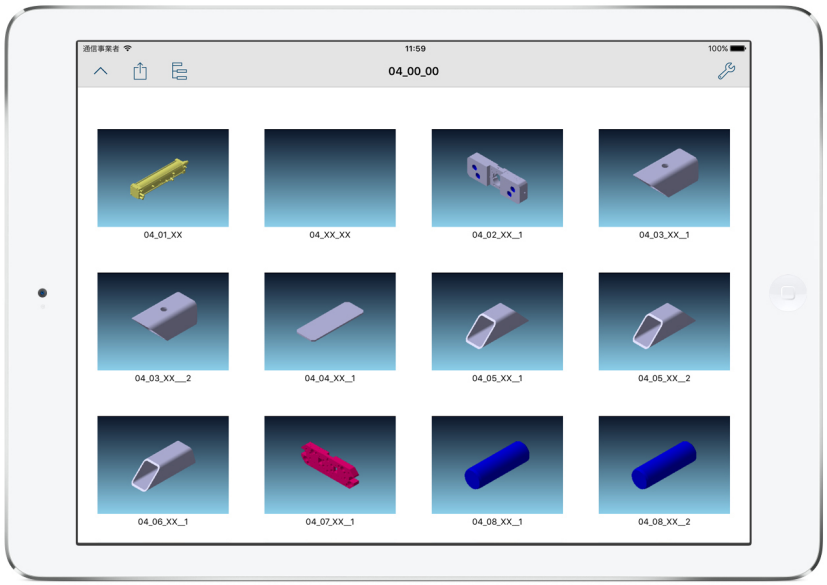
[製品ツリー] コマンド：*12ページを参照*

画像スタックをダブルタップすると、選択したファイルの 3D ビューが表示されます。



画像スタックを長押しすると、[削除] アイコンが開きます。アイコンをタップして、選択したファイルを削除します。

ファイル名をダブルタップすると、ファイル情報のポップオーバーが表示されます。
データには、ファイル名、製品名、ファイルバージョン、ソースデータの形式、作成日およびダウンロード日が含まれます。



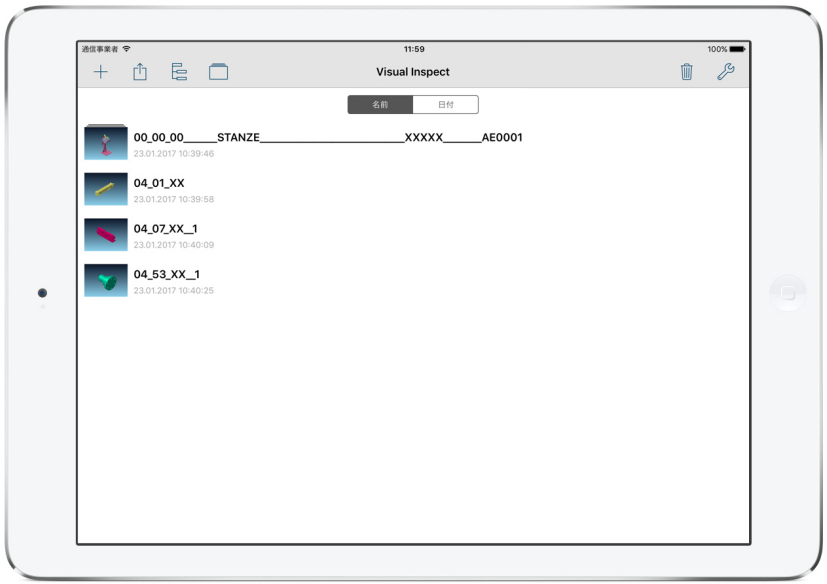
[ごみ箱]コマンド(最上位レベルのみ):
タップして、削除するファイルを複数選択します。選択したすべてのファイルには削除ボタンのマークが付きます。**[完了]**をタップして削除を実行します。マークが付いたスタックをすべて削除するか、または**[キャンセル]**をタップしてプロセスをキャンセルします。.

[設定]コマンド:
タップすると、様々なオプションが含まれるポップオーバーが開きます。
→ *8ページを参照*

[名前 / 日付]セグメント(最上位レベルのみ):
タップして、ローカルファイルを名前またはダウンロード日でソートします。

画像スタック上でのピンチアウトジェスチャ:
選択したスタックが開き、製品構造の次に深いレベルに含まれるすべてのコンポーネントが表示されます。ピンチアウトしながら画面から指を上げると、次に深いレベルが表示されます。ピンチしながら方向を変え、画面から指を上げると、実際のレベルに留まります。より深いレベルでピンチインして、それを閉じます。

[上]コマンド(より深いレベルのみ):
タップして現在のレベルを閉じ、次に高いレベルのコンポーネントを表示します。



[リストビュー]コマンド:
タップして、スタックのローカルファイルビューからリストビューに変更します。このビューでは、スタックの代わりに、明確に配置されたリストにローカルファイルが表示されます。

リストビューでも、ツールバーコマンドが利用可能です。リストは名前または日付でソートすることができます。リスト内の線をダブルタップすると、3Dビューが開きます。ファイルの検索もリスト内で使用できます。
→ *8ページを参照*

リストビューでは、より深いレベルへの掘り下げ、長押しによる要素の削除、あるいは追加情報の表示はできません。

[リストビュー]コマンド をタップして、[スタック]ビューに戻ります。

2. アプリ情報およびマニュアル

ポップオーバーの [アプリ情報] をタップすると、全般情報ビューが開きます (例: 開発者およびアプリバージョン)。ここで、クイックスタートプガイドに説明されているように、目視検査を登録することもできます。
ポップオーバーの [マニュアル] をタップすると、利用可能なマニュアルのリストが表示されます。リストからエントリをタップしてマニュアルを開きます。[完了] コマンドをタップしてマニュアルを閉じます。英語のマニュアルはデバイス上で常に利用できます。その他の対応言語 (フランス語、ドイツ語、イタリア語、日本語、簡体字中国語またはスペイン語) でマニュアルを読みたい場合、[ダウンロード] コマンド をタップしてダウンロードできます (お使いの iPad がその言語に設定されている場合)。すでにダウンロードしたマニュアルの新しいバージョンが利用可能になると、[更新] ボタン が表示されます。このボタンをタップしてマニュアルを更新します。ダウンロードや更新を行うには、お使いの iPad がインターネットに接続されている必要があります。その後はマニュアルをオフラインでも利用できます。

3. ファイルの検索

ポップオーバーの [検索] オプションをタップすると、検索バーとキーボードが開きます。
検索語を入力し、検索語が含まれるファイルを検索します。
検索では大文字と小文字が区別され、小文字が重視されます。
注記: 上部ツールバーで [大文字と小文字の区別] スイッチを左側にスライドさせることで、大文字と小文字の区別をオフにすることができます。
検索機能は、各レベルのローカルファイルで利用可能です。
ツールバーの [キャンセル] をタップして検索を終了するか、または検索バーの をタップします。

4. セキュリティ設定

ポップオーバーの[パスワードを定義]をタップして、アプリケーションのパスワードを作成します。パスワードは、アプリケーションが開いた時に毎回求められます。

リストからオプションをタップすると、新しいビューが開きます。[開始時にパスワードを問い合わせます]スイッチを右側にスライドさせて開きます。[OK]をタップして、パスワードを再度入力します。両方のパスワードが一致した場合、パスワードが保存されます。パスワードが一致しない場合、エラーメッセージが表示され、プロセスはキャンセルされます。[キャンセル]をタップすると、いつでもプロセスを中止できます。

パスワードの定義が完了すると、アプリが開く度にパスワードプロンプトが表示されます。正しいパスワードが入力された場合のみ、アプリケーションが起動します。

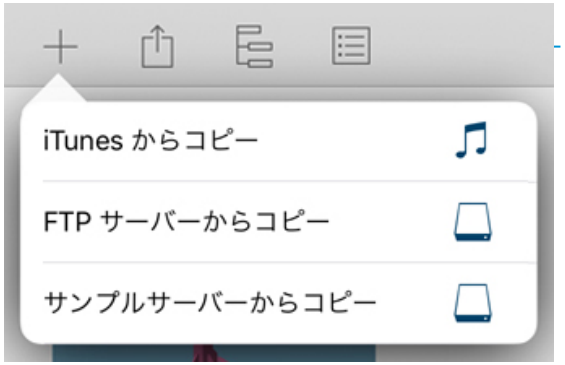
定義したパスワードを無効にするには、[パスワードを変更]をタップしてスイッチを閉じます。あるいはパスワードを変更します。いずれの場合も、変更を許可するために元のパスワードを入力する必要があります。

→ ***注意:***

パスワードを忘れた場合、その後アプリケーションを起動することはできません。アプリを復旧させるには、アプリケーションをデバイスから完全に削除し、再インストールします。注記:すべてのデータが失われます。

注意：

アプリは、データコンバータで作成されたデータのみを受け入れます。



5. インポート

[＋]コマンドをタップすると、オプションが含まれるポップオーバーが開きます。

ポップオーバーの [iTunes からコピー] をタップすると、iTunes に以前読み込まれたファイルのリストが開きます。
リスト内のファイルをタップして、それをインポートします。

ポップオーバーの [FTP サーバーからコピー] オプションをタップして、以前定義した FTP サーバーからファイルをダウンロードします。このオプションは、ダウンロード FTP サーバーがアプリの [設定] で定義されている場合にのみ利用可能です。

フォルダをダブルタップすると、フォルダのコンテンツが表示されます。

ツールバーの [ダウンロード] コマンドをタップして、ファイルをダウンロードします。選択されていない場合、選択を要求されます。

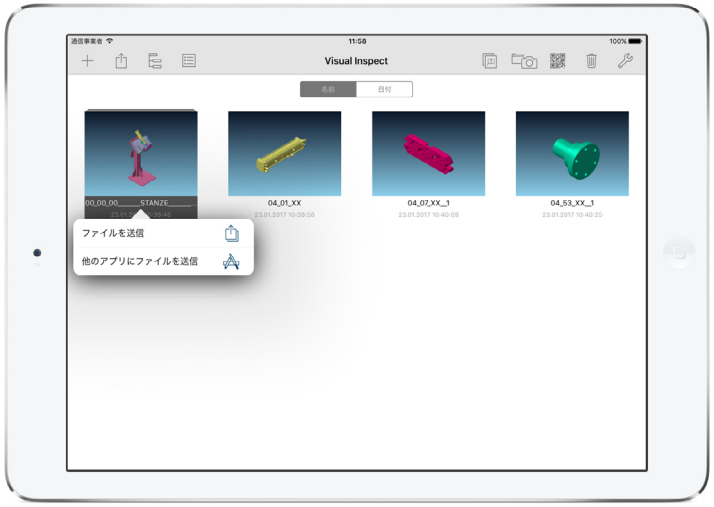
ツールバーの [上] コマンドをタップして、上のレベルに進みます。

ツールバーの [戻る] コマンドをタップして、ローカルファイルに戻ります。

ポップオーバーの [サンプルサーバーからコピー] コマンドをタップして、サンプルファイルが含まれるテストサーバーにアクセスします。

電子メール / Airdrop
ファイルは、AIRDROP　経由で、電子メールの添付ファイルとしてデバイスに送信できます。 ここでは、ファイル形式と対応アプリが自動的に認識され、ファイルは VISUAL INSPECT 内で直接開くことができます。

これらの転送オプションでは、ファイルはローカルファイルの下に置かれます。.



6. エクスポート

[エクスポート]コマンド をタップして、選択したファイルをエクスポートします。ファイルが選択されていない場合、ファイル選択のプロンプトが表示されます。ポップオーバーが表示され、そこでエクスポート形式を選択することができます。

[ファイルを送信]コマンドをタップします。次に希望のファイル形式をタップして、エクスポートを完了します。オプションは以下のとおりです:

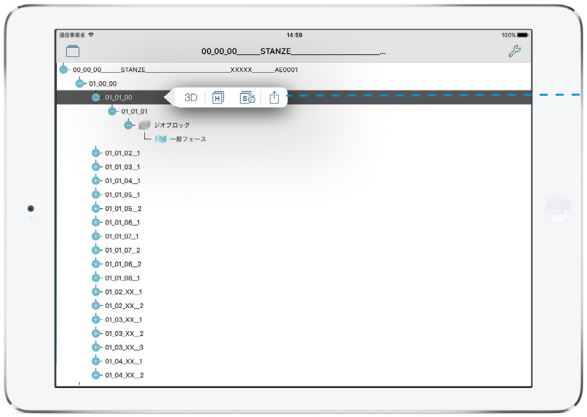
AIRDROP によるエクスポート:
選択したファイルは、AIRDROP 経由で選択したデバイスに送信されます。

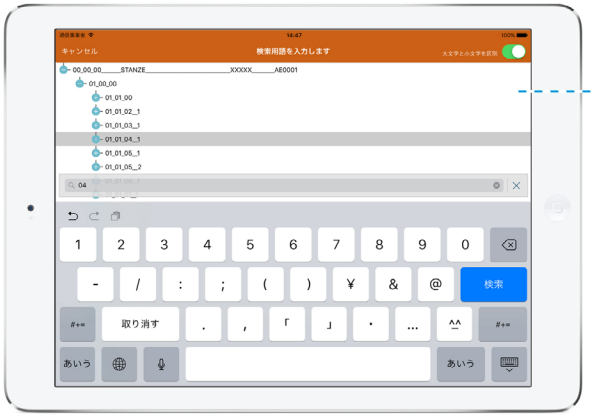
電子メールによるエクスポート:
選択したファイルは、電子メールの添付ファイルとして送信されます。電子メールを編集するためのメールアプリが開き、添付ファイルが自動的に追加されます。

FTP によるエクスポート:
このオプションは、アップロード FTP サーバーがアプリの[設定]で定義されている場合のみ利用可能です。このオプションを選択すると、接続が確立され、FTP サーバーのコンテンツが表示されます。希望のフォルダに達したら、ツールバーの[エクスポート]コマンド をタップしてファイルをアップロードすることができます。

ITUNES によるエクスポート:
デバイスが接続されている場合、選択したファイルがエクスポートされ、ITUNES の[ファイル共有]の下に表示されます。

3. ツリービュー





必要に応じて[ツリービュー]コマンド をタップしてファイルを選択すると、ツリービューが開き、選択したファイルの製品構造が表示されます。

1. 機能

[レベルを開く]コマンドをタップすると、ツリービューの次のレベルが開きます。

[レベルを閉じる]コマンドをタップすると、現在のレベルが閉じます。

コンポーネントの名前をダブルタップすると、コンテキストメニューが開きます。

コンテキストメニューの[3D]コマンドをタップすると、選択したコンポーネントの 3D ビューが開きます。

/ コンテキストメニューの[非表示/表示]コマンドをタップして、選択したコンポーネントの非表示/表示を切り替えます。3D ビューでは非表示/表示が重視されます。

コンテキストメニューの[非表示/表示のリセット]コマンドをタップすると、非表示のコンポーネントがすべて表示されます。

コンテキストメニューの[エクスポート]コマンドをタップして、選択したコンポーネントとすべてのサブコンポーネントをエクスポートします。動作は、ローカルファイルでのエクスポートと同様です。

→ *11ページを参照*

/ 上部ツールバーで[スタック/リストビュー]をタップすると、選択したコンポーネントが表示されます。

ツールバーの[設定]コマンドをタップすると、ポップオーバーが開き、検索が開始します。ファイル検索で説明されているように、検索語を入力し、ツリーの製品構造を検索します。結果はグレーで表示され、必要に応じてツリー構造が開きます。

→ *8ページを参照*

4. 3D ビュー

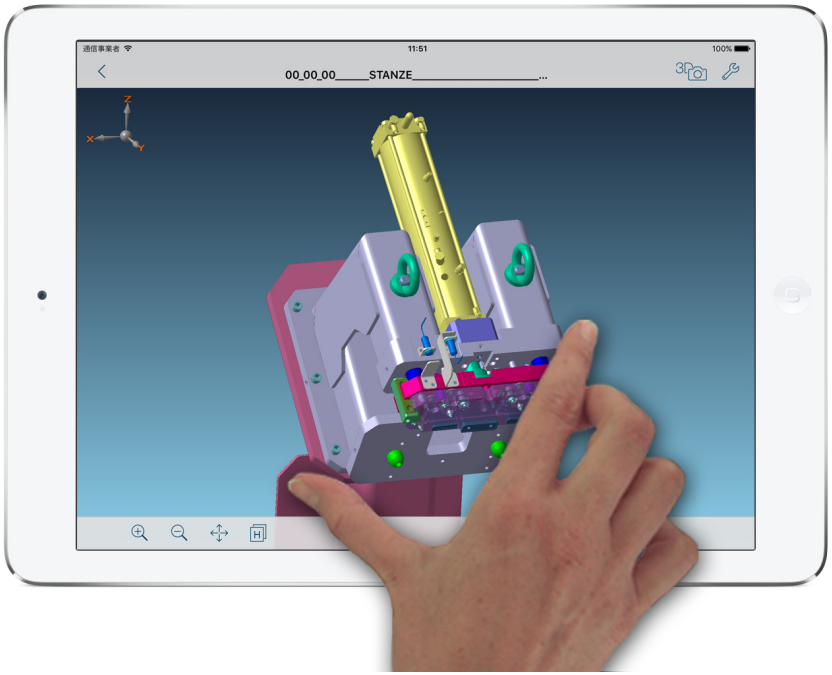
1. ビューの操作

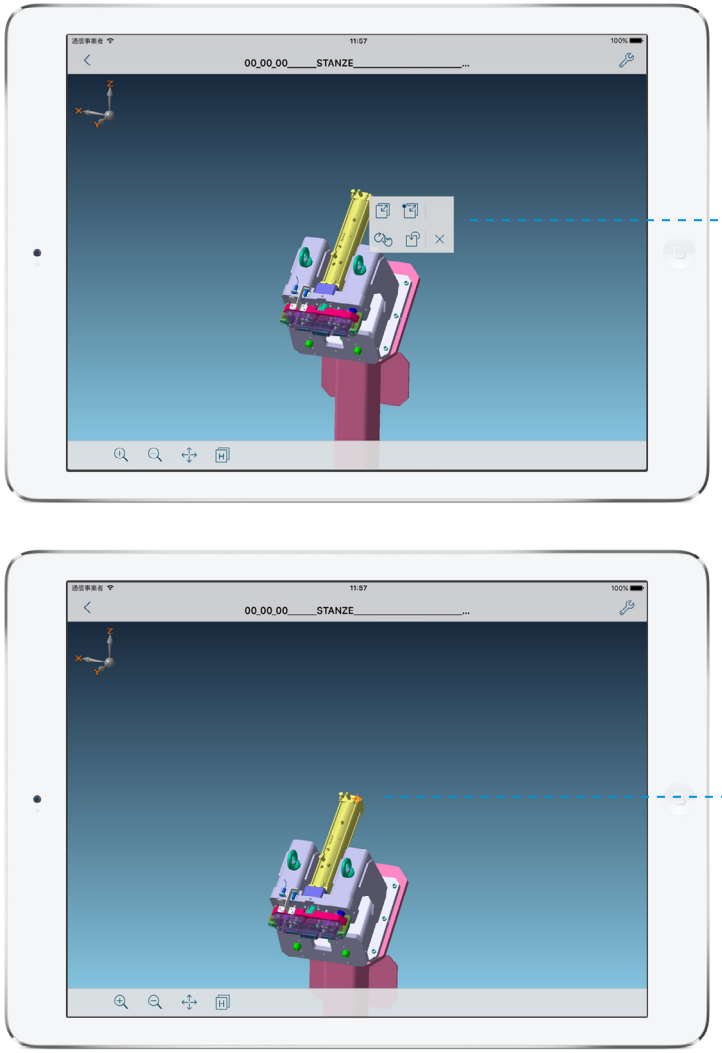
ジェスチャを使用した 3D ビューの操作：

1 本指での移動：
3D オブジェクトを回転させます。

2 本指を同じ距離を維持しながら移動させる：
3D オブジェクトを移動させます。

2 本指でのピンチイン/アウト：
拡大/縮小。





3D オブジェクトのタップ:
それぞれのコンテキストメニューが開きます。

コンテキストメニューの [閉じる] コマンドをタップしてそれを閉じるか、または3D　オブジェクト上の別の点をタップすると、メニューが自動的に閉じ、新しい位置で再度開きます。

コンテキストメニューの [回転点] コマンドをタップして、タップした点に新しい回転点を設定します。回転点は、小さい十字形で示されます。

コンテキストメニューの [フェイスへ回転] コマンドをタップして、3D ビューをタップしたフェイスへ回転させます。

下部ツールバーの [拡大] コマンドをタップして、少しずつ拡大します。

下部ツールバーの [縮小] コマンドをタップして、少しずつ縮小します。

下部ツールバーの [フィットオブジェクト] コマンドをタップして、3D オブジェクトを画面中央に合わせます。

上部ツールバーの [戻る] コマンドをタップして、3D　ビューを閉じ、前のスタックまたはリストビューに戻ります。

2. 概観機能

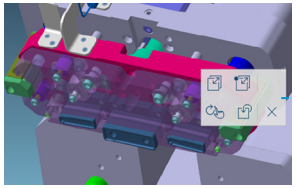
/　下部ツールバーの [表示/非表示] コマンドをタップして、表示/非表示を切り替えます。

→ *15ページを参照*

上部ツールバーの [設定] コマンドをタップすると、[設定] が開きます。

→ *17ページを参照*

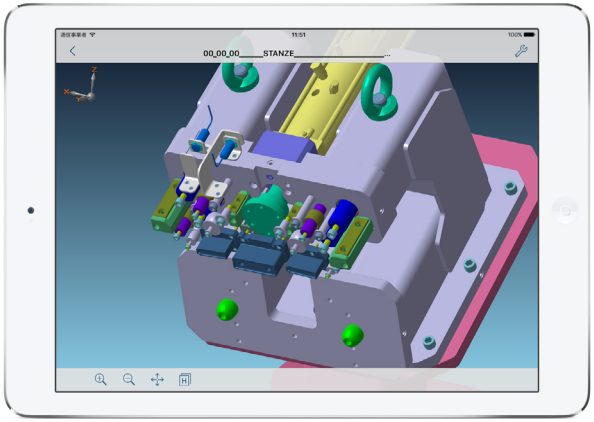
3. 非表示 / 表示



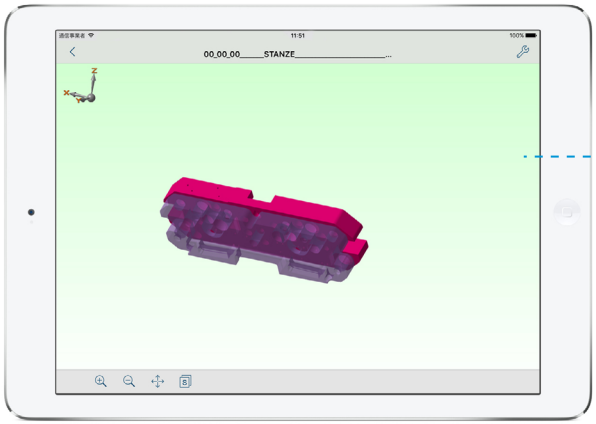
3D オブジェクトをタップすると、コンテキストメニューが開きます。

コンテキストメニューの [表示/非表示の切り替え] コマンドをタップして、選択したオブジェクトの表示/非表示を切り替えます。

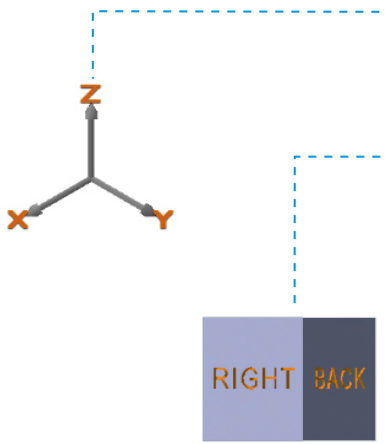
コンテキストメニューの [表示/非表示の複数切り替え] コマンドをタップして、複数選択を有効にします。これは上部ツールバーのテキストにも表示されます。ツールバーの [キャンセル] をタップするか、または空きスペースをタップしてコンテキストメニューを再度開き、[複数] コマンドを再度選択することでモードをキャンセルするまで、このモードで選択した要素は選択されたままになります。



下部ツールバーの [ビューを非表示] コマンドをタップして、非表示ビューに変更します。このビューでは、非表示のコンポーネントが表示されます。概観を向上させるため、このエリアの背景は異なる色になっています。



下部ツールバーの [ビューを表示] コマンドをタップして、[表示] ビューに変更します。



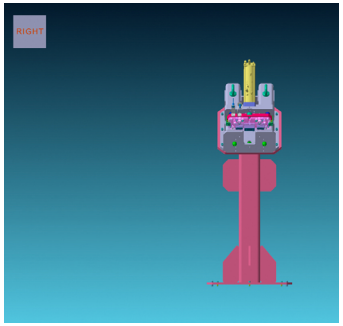
4. 軸システムとビューの変更

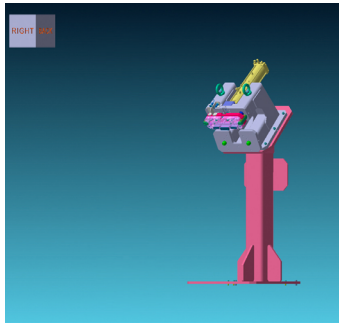
標準のビューモードでは、軸システムは 3D ビューの左上隅にあります。この軸システムは 3D オブジェクトの回転をすべて追跡し、スペースでの位置づけを容易にします。

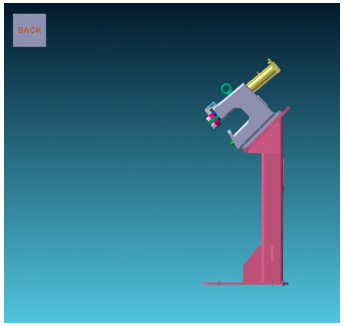
軸システムのエリアをダブルタップすると、上、下、右、左、前および後のラベルが付いたキューブビューに変わります。このモードでは、1 本指または 2 本指を使った回転と移動が無効になります。

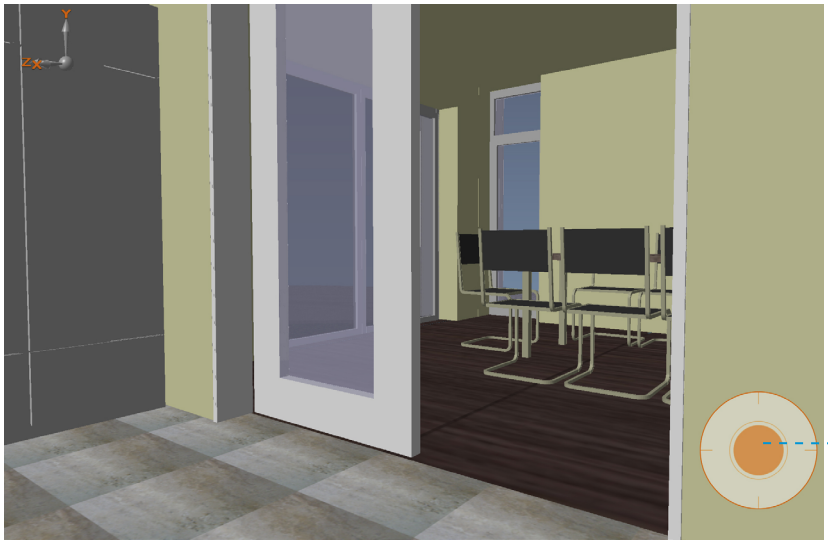
ディスプレイをスワイプして、モデルを希望の方向へ回転させます。

3D キューブをダブルタップして、元の軸システムと 3D ビューの標準操作に戻ります。









5. 3D ビューの設定

[設定] コマンドをタップすると、[設定] ポップオーバーが開きます。ポップオーバーオプションのナビゲーションおよび方向オプション：

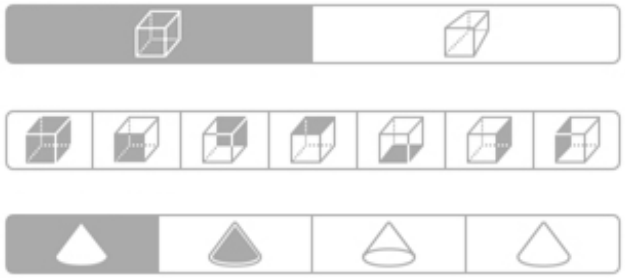
[ビューのナビゲーション] のタップ：

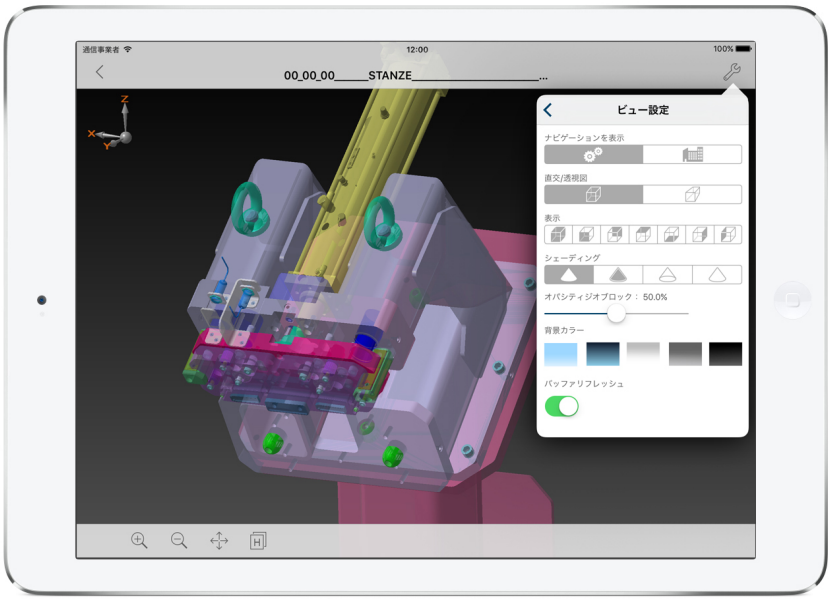
1. 13 ページで説明されているナビゲーションには、[標準] をタップします。
2. [アーキテクチャのナビゲーション] をタップして、追加のセグメント制御、方向を追加します。このセグメントによって、ナビゲーションの重力方向を定義できます。

[姿勢] セグメントのタップ：

1. モデルは x 軸上で方向付けられます。
2. モデルは x 軸下で方向付けられます。
3. モデルは y 軸上で方向付けられます。
4. モデルは y 軸下で方向付けられます。
5. モデルは z 軸上で方向付けられます。
6. モデルは z 軸下で方向付けられます。

[姿勢] に加えて、新しいナビゲーション要素が右下隅に追加されています。このナビゲーションツールを使って、アーキテクチャモデルのナビゲーションができます。
このモードでは、指の動きによる拡大/縮小/変換/回転が可能です。





[直交 / パースペクティブ] セグメント：

1. オブジェクトは、直交ビューで表示されます。
2. オブジェクトは、パースペクティブビューで表示されます。

[ビュー] セグメントをタップすると以下が表示されます：

1. アイソメ。
2. 前面。
3. 背面。
4. 上部。
5. 下部。
6. 右。
7. 左。

[シェード] セグメントをタップすると以下が表示されます：

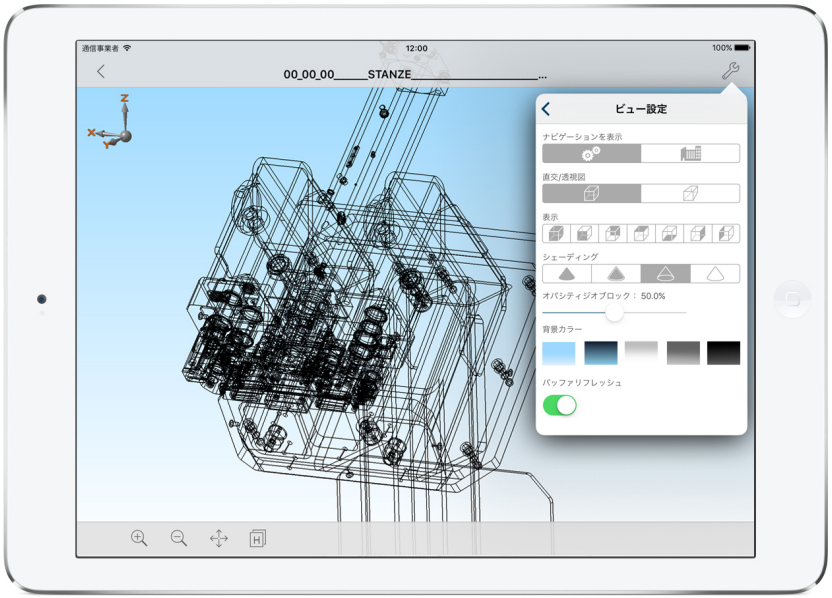
1. 3D オブジェクトのフェイスのみ。
2. 3D オブジェクトのフェイスとエッジ。
3. 3D オブジェクトのエッジのみ。
4. バックフェースのない、3D オブジェクトのエッジ（緑）。

フェイスを表示するモードをここで選択した場合、[オパシティジオブロック] スライダーがアクティブになります。

[オパシティジオブロック] スライダーの移動：

ジオブロックフェイスの透明度の値が変わります。

カラーグラデーションタイルのタップ:
5　種類のカラーグラデーションタイルに様々なカラーグラデーションが示されます。タイルに示されたグラデーションは、3D　ビューの背景として使用されます。これらのグラデーションは、[表示]エリアでのみ使用されます。[非表示]エリアでは、薄緑のグラデーションが使用されます。



[バッファのリフレッシュ]スライダーのタップ:
アクティブモードでは、視覚化を強化するたにの大量の三角形を含む大きいデータが使用されます。回転、変換、拡大/縮小を行う間、アクションを高速処理するために、製品構造の一部は描画されません。指の動きが完了すると、モデル全体が再度表示されます。

このスイッチが無効になっている場合、モデル全体が常に表示されます。

このダイアログの設定は不変であり、3D ビューが開く度に使用されます。